

経済レポート

2018(平成30)年度 新入社員意識調査アンケート結果【名古屋版】

～人間関係を重視する男性社員、仕事に不安を感じている女性社員～

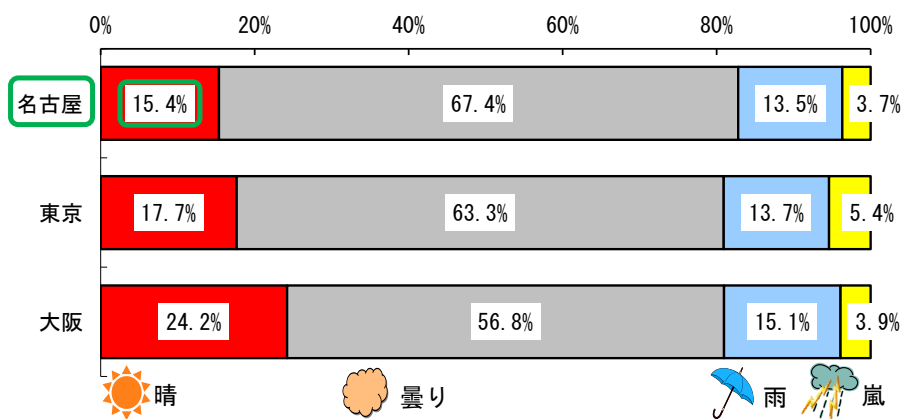
調査部 研究員 土志田 るり子

○日本の現状に対する見方は厳しい

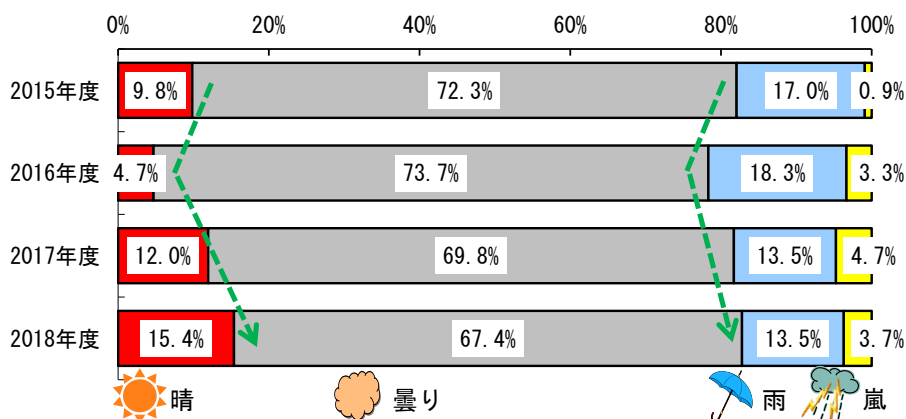
今の日本の状態をどう思うか、新入社員に天気（晴、曇り、雨、嵐）で表してもらったところ、最も多く選ばれたのは「曇り」（67.4%）であった（図表1）。「晴」と答えた人の割合は15.4%にとどまり、東京（17.7%）や大阪（24.2%）よりも厳しい見方が示された。東海地方は製造業比率が高く、輸出企業も多いため、地域経済が為替の変動や海外の保護主義的な政策の影響を受けやすい。足元の国内景気は回復しているものの、これらの要素については引き続き先行き不透明感が強く、他の地域よりも現状の判断が下押しされている可能性がある。

もっとも、2015年度以降では「晴」と答えた人の割合が最も高く、反対に「曇り」や「雨」の割合は低い（図表2）。全国と同様に、景気が持ち直す中で新入社員の心理は改善していると考えられる。

図表1 今の日本の状態を天気で表すと？



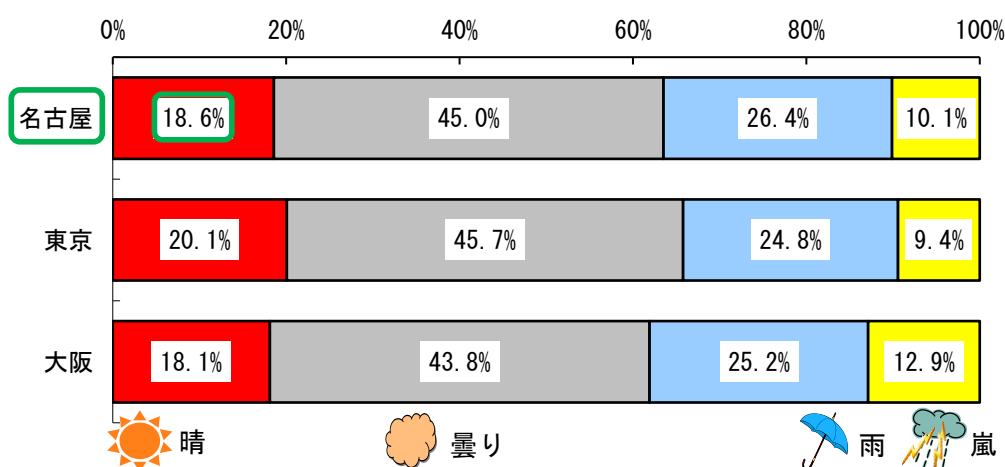
図表2 今の日本の状態を天気で表すと？（名古屋地区推移）



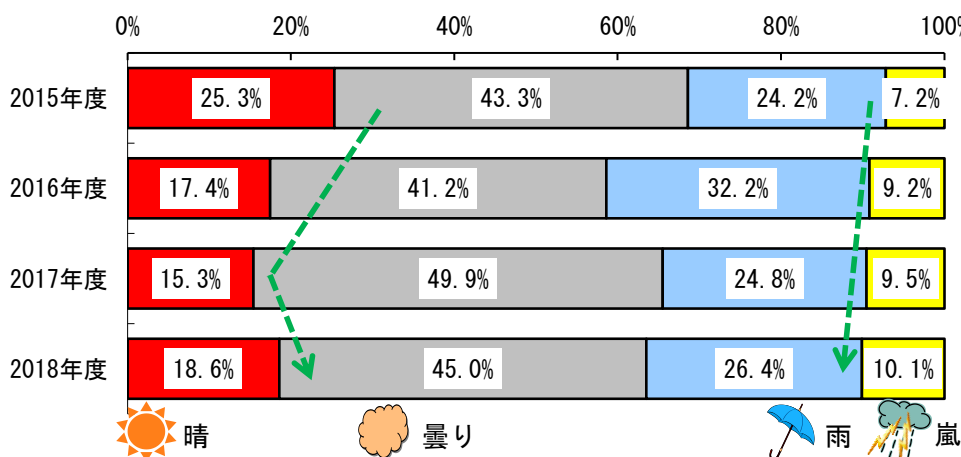
また、10年後の日本の状態についても尋ねたところ、現状に対する質問と同様に「曇り」（45.0%）と答えた人が最も多かった（図表3）。一方、「晴」と答えた人の割合は18.6%と、現在に対する見方よりはやや高まっているが、「雨」（26.4%）や「嵐」（10.1%）の回答割合はそれを上回っており、日本の先行きに対する見方は厳しいものとなっている。2027年のリニア新幹線開通による効果については、今のところ実感できるものではないようだ。

しかし、2015年度からの推移を見ると、今年度は「晴」と答えた人の割合が上昇に転じた（図表4）。足元の景気回復が、先行きの景気に対する見方を改善させている可能性がある。ただし、「雨」や「嵐」という回答の割合も上昇しており、先行き不透明感を感じる人の割合も同時に高まっている。

図表3 10年後の日本の状態を天気で表すと？



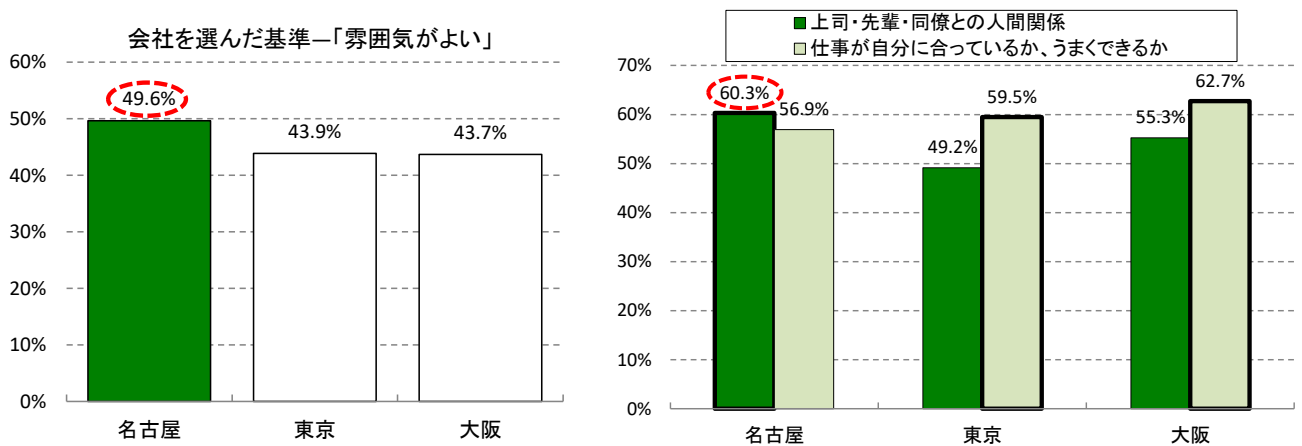
図表4 10年後の日本の状態を天気で表すと？（名古屋地区推移）



○人間関係を重視する名古屋の男性

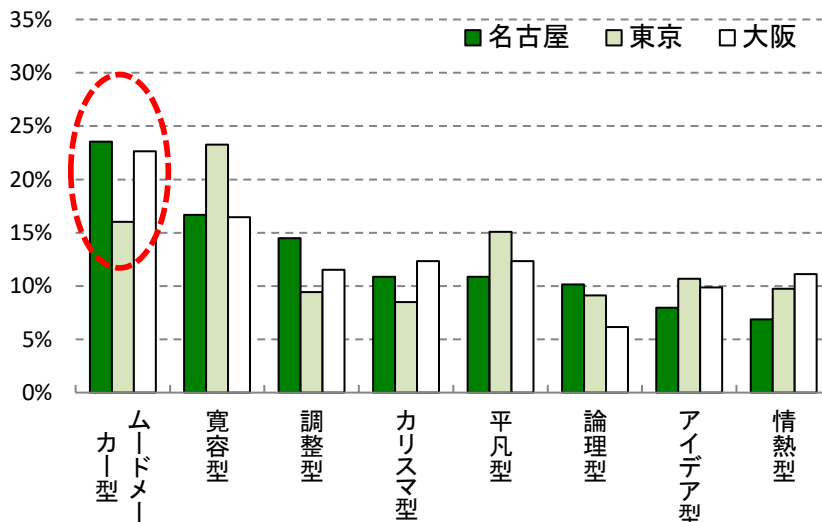
名古屋の男性新入社員に就職活動の際に会社を選んだ基準を聞くと、「雰囲気がよい」(49.6%)という回答の割合が東京や大阪より高かった(図表5左)。また、仕事・職場生活に関して不安なことを尋ねると、他地域では「仕事が自分に合っているか、うまくできるか」が最多であったが、名古屋では「上司・先輩・同僚との人間関係」(60.3%)を挙げた人が最も多かった。(図表5右)。名古屋地区の男性は他の地域と比べて、穏やかな人間関係を望む傾向が強いようだ。

図表5 会社を選んだ基準、仕事・職場生活に関して不安なこと(男性)



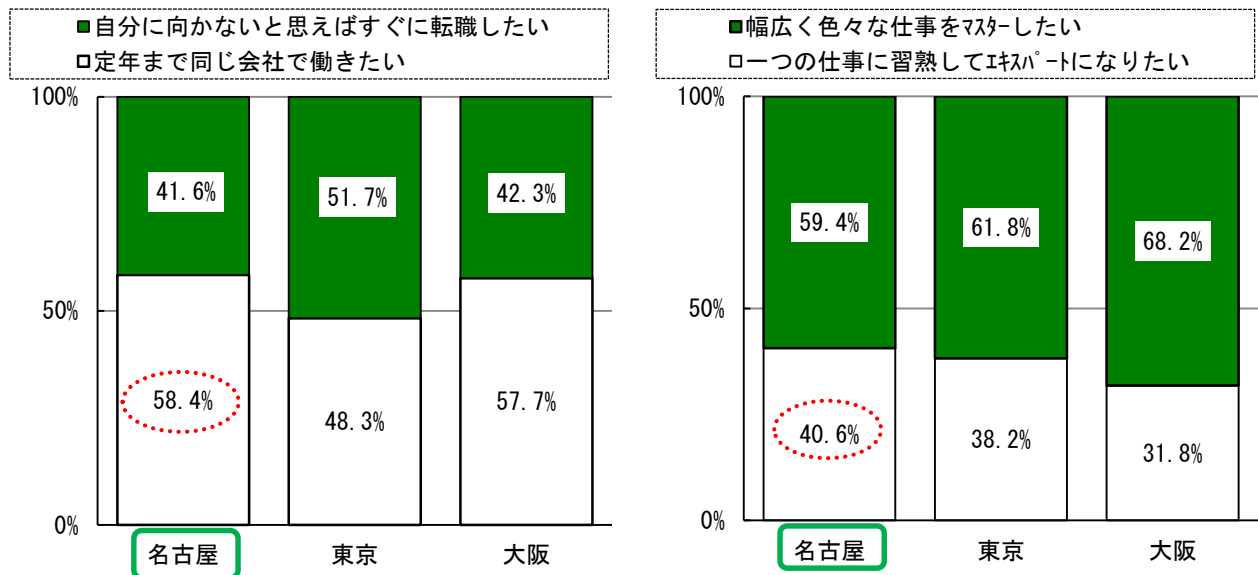
また、名古屋の男性は、職場の雰囲気や一緒に働く人同士の間人間関係を重視しているため、「ムードメーカー型」(23.6%)のような職場の雰囲気を盛り上げてくれる上司を望む人が多い(図表6)。

図表6 理想の上司像(男性)



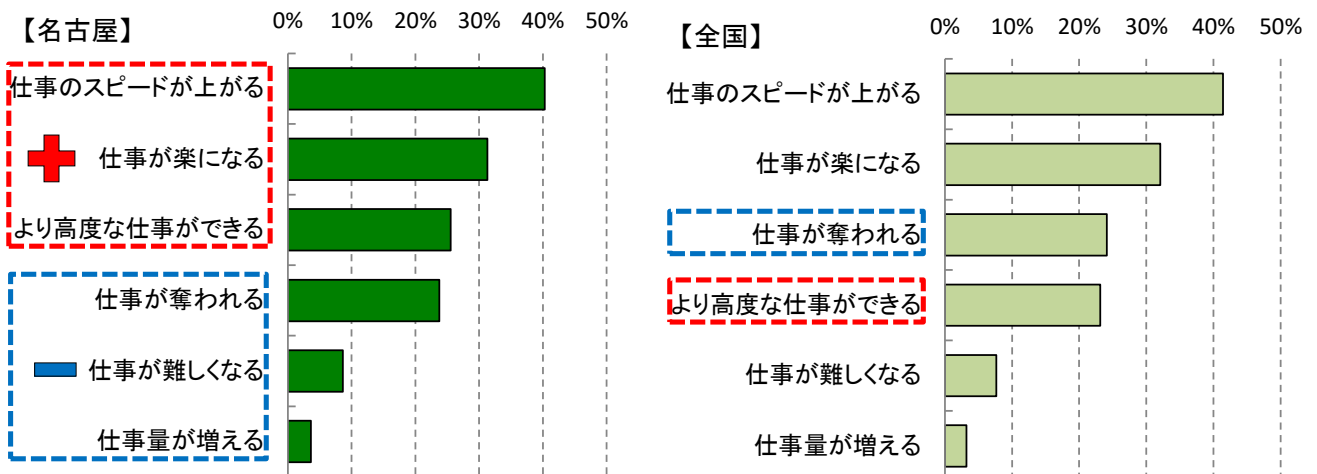
次に、名古屋の男性の就業意識を見ると、東京や大阪と比べて「定年まで同じ会社で働きたい」と考えている人が多い（図表7左）。また、過半数には満たないものの「一つの仕事に習熟してエキスパートになりたい」（40.6%）と考える人が東京や大阪よりも多く、名古屋には決めたことを最後まで貫くタイプの新入社員が多いとみられる（図表7右）。

図表7 就業意識（男性）



なお、仕事に対する不安を感じる新入社員が相対的に少ない名古屋の男性の間では、AI（人工知能）の発達に対する考え方も前向きであり、「仕事を奪われる」（23.7%）という懸念を、「より高度な仕事ができる」（25.5%）という期待が上回っている（図表8）。

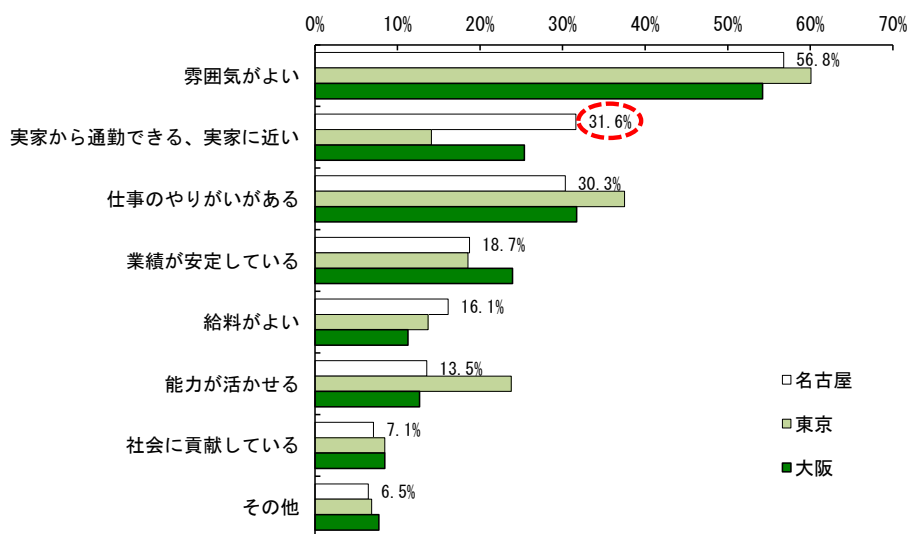
図表8 AI（人工知能）の発達が働き方に与える影響（男性）



○仕事に不安を感じている名古屋の女性

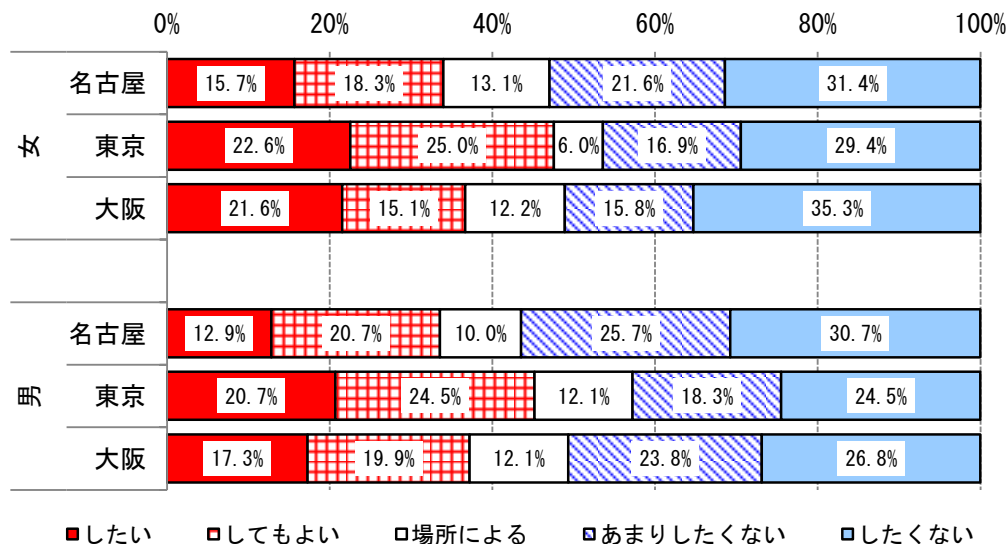
名古屋地区の女性が就職活動の際に何を基準に会社を選んだかを聞いたところ、最も多かった回答は「雰囲気が良い」(56.8%)で、東京と大阪と共通であった。しかし、2位については東京・大阪では「仕事のやりがいがある」だったのに対し、名古屋では「実家から通勤できる、実家に近い」(31.6%)であった(図表9)。名古屋地区の女性の、家族の住む土地からなるべく離れたくないという傾向の強さが読み取れる。

図表9 会社を選んだ基準—実家から通勤できる、実家に近い



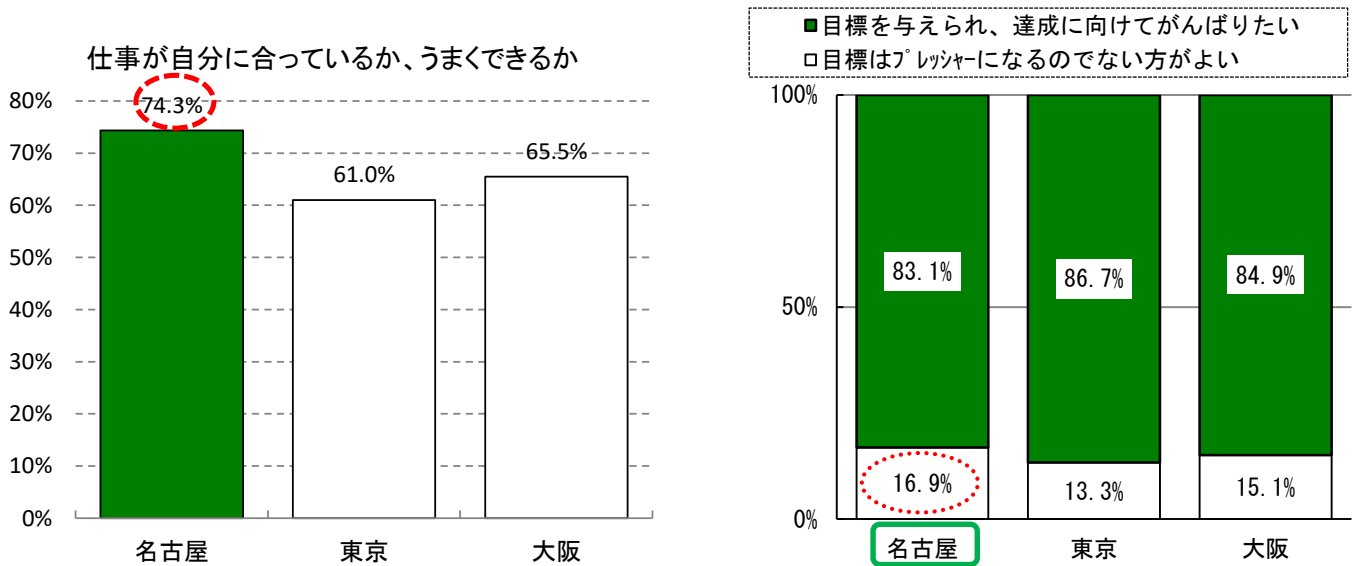
また、海外勤務をしてみたいかどうかについては、東京や大阪と比べ、「したい」と「してもよい」を合わせた割合が低いのと同時に、「したくない」「あまりしたくない」を合わせた割合は高く、男性でも同様の傾向がみられる。(図表10)。名古屋地区に実家のある人は、女性を中心に地元で就職する傾向があり、また、就職してからも地元に近い地域で仕事を続けることを望む人が多いようだ。

図表10 海外勤務をしてみたいか



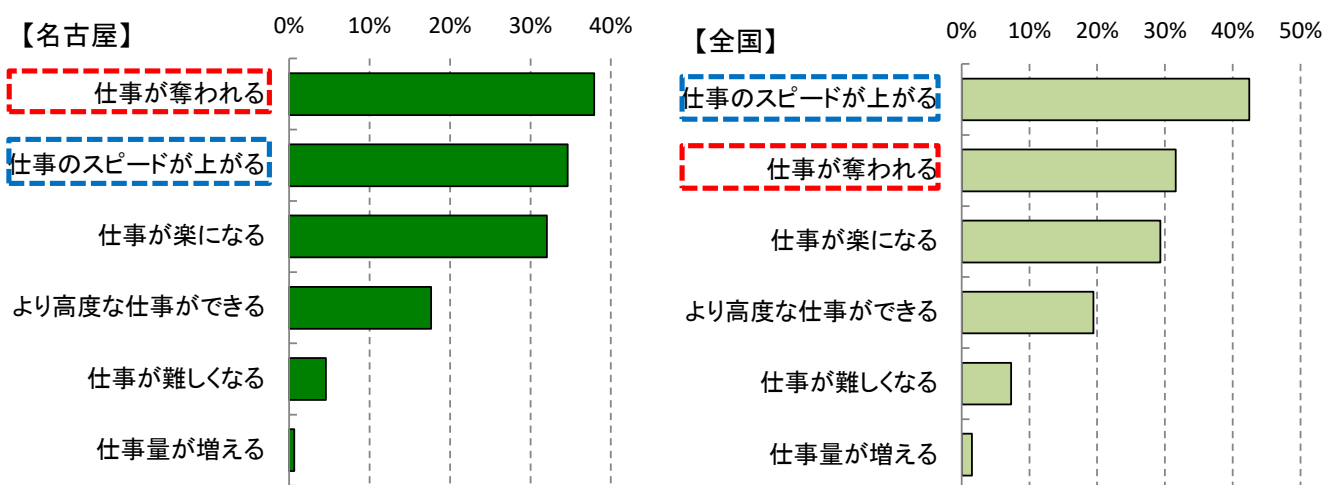
名古屋の女性に、新たに始まる仕事・職場生活について不安なことを尋ねたところ、他地区と比べて「仕事が自分に合っているか、うまくできるか」(74.3%)という不安を感じている人が多かった(図表 11 左)。これは、「目標はプレッシャーになるのではない方がよい」(16.9%)と考える新入社員が多いことの原因にもなっていると考えられる(図表 11 右)。

図表 11 仕事・職業生活に関して不安なこと、目標についての考え方(女性)



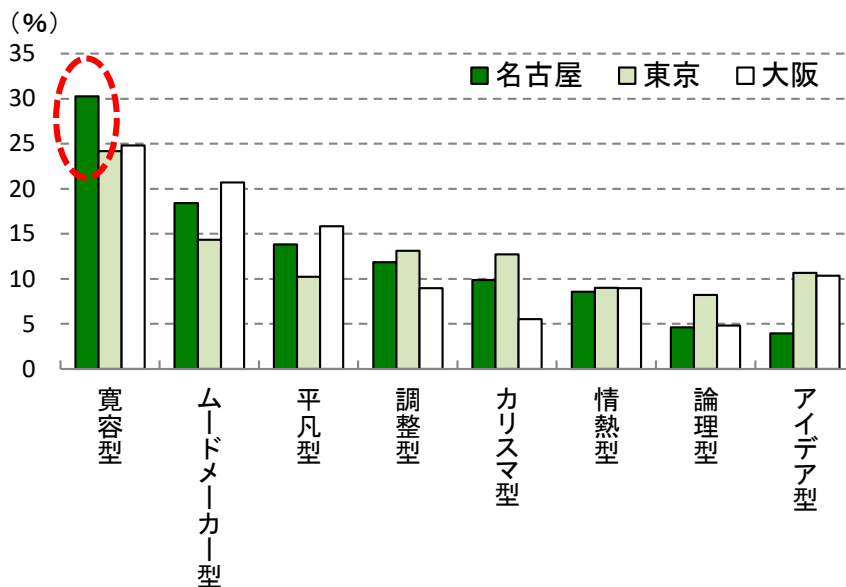
さらに、仕事の遂行に自信がないためか、AI(人工知能)の発達が働き方に与える影響については、全国では「仕事のスピードが上がる」という回答が最も多かったのに対し、名古屋地区では「仕事が奪われる」(37.9%)というネガティブな影響を懸念する人の割合が最も高かった(図表 12)。

図表 12 AI(人工知能)の発達が働き方に与える影響(女性)



名古屋地区の女性新入社員は仕事に対して不安を抱えている人が多いため、一人前になるまで忍耐強く指導してくれる、暖かい上司を求めており、「寛容型」(30.3%)を選んだ人の割合は東京、大阪よりも高かった(図表13)。

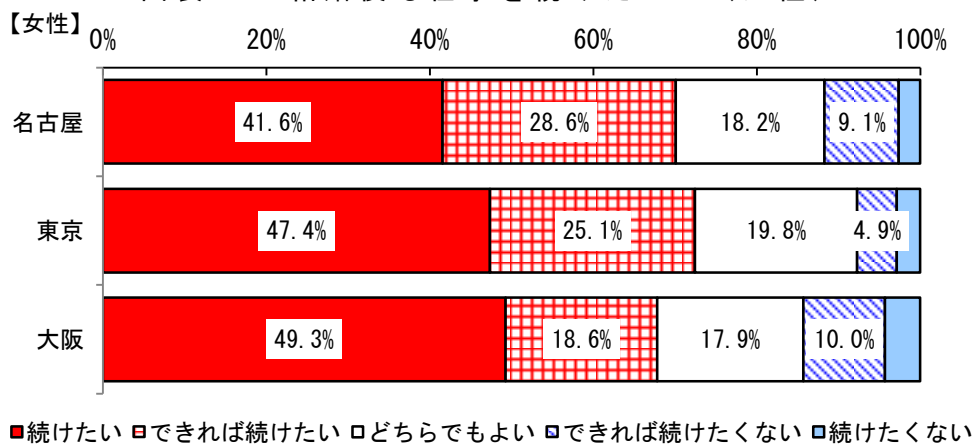
図表13 理想の上司像(女性)



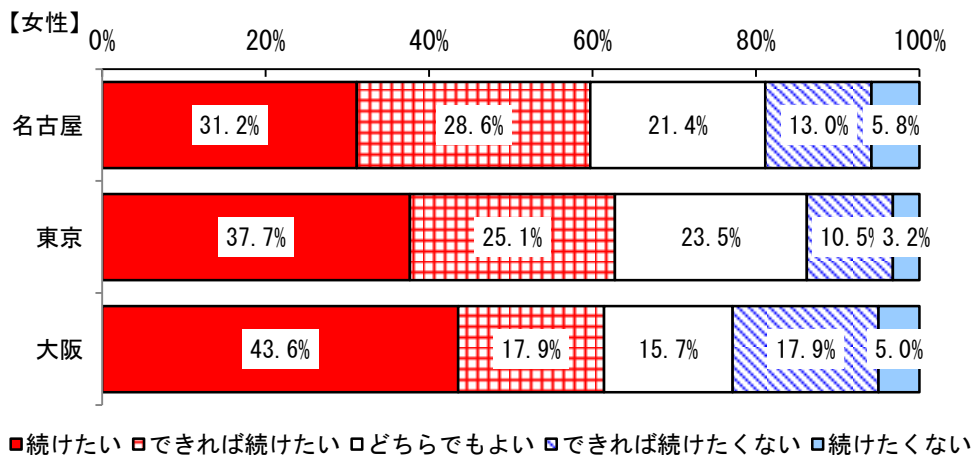
○「イクメン」を望む人は他地域よりも少ない

名古屋の女性に対し、仕事とライフ・イベントに関する考え方を尋ねると、「結婚後」、「子どもが生まれた後」とも、仕事を「続けたい」と「できれば続けたい」という前向きな回答が過半数となった（図表 14、15）。しかし、子どもが生まれた後に仕事を「続けたくない」と考えている人は5.8%と、少数ではあるものの、他地域よりも多い。また、「できれば続けたい」と、就業継続に条件付きで希望を持つ女性の割合が高い点からは、家族や職場から理解や助けが得られるか、という点に不安を感じている人が東京や大阪と比べて多いと考えられる。

図表 14 結婚後も仕事を続けたいか（女性）



図表 15 子どもが生まれた後も仕事を続けたいか（女性）

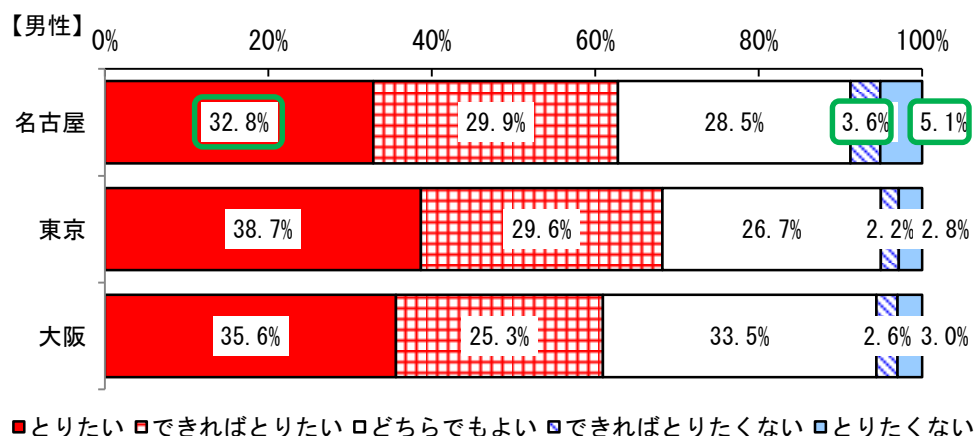




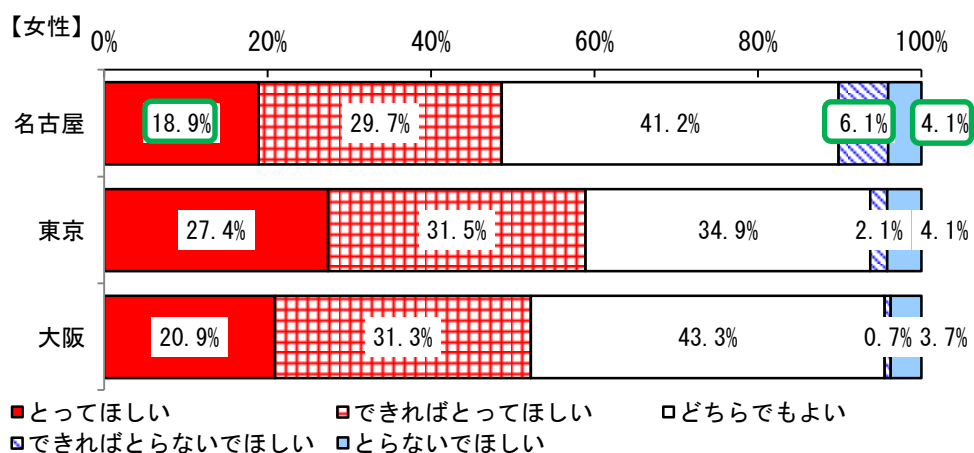
子どもが生まれた後に育児休業を取りたいかを尋ねたところ、名古屋の男性では「とりたい」という明確な希望を持つ人の割合が東京、大阪より低く、また、「できればとりたくない」「とりたくない」という消極的な回答の割合が高かった（図表 16）。もっとも、「とりたい」と「できればとりたい」を合わせれば過半数であり、育児参加に前向きな男性社員が多いことは確かだ。

一方、女性に対して「パートナーに育児休業を取ってほしいか」と聞いたところ、「とってほしい」「できればとってほしい」という前向きな回答は半数に届かなかった（図表 17）。さらに、「できればとらないでほしい」「とらないでほしい」という回答は他地区よりも多い。パートナーが「イクメン」になることを期待する女性は東京や大阪と比べて少なく、男女とも性別役割分業の価値観が強いと考えられる。

図表 16 子どもが生まれた後、育児休業を取りたいか（男性）



図表 17 子どもが生まれた後、パートナーに育児休業を取ってほしいか（女性）



－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。